

# 泌尿器科紀要

第 26 巻 第 10 号

1980年10月



ヒト正常腎に由来する培養上皮様細胞の性質について.....松田 稔・ほか...1201

腎細胞癌における腎静脈および下大静脈の Computed Tomography  
による検討.....増田富士男・ほか...1213

腎のいわゆる「場所取り病変 (Space occupying lesion)」における  
腎シンテグラム断層の診断的価値.....伊藤 坦・ほか...1221

実験的腎動脈塞栓術における脊損併発例の検討.....酒井 晃・中村武夫...1229

睾丸腫瘍59例の臨床的検討.....吉田 和彦・ほか...1237

東海大学病院泌尿器科における尿中分離細菌について  
第1報: 1976~1978年の分離細菌とディスク感受性について.....岡田 敬司・ほか...1245

RIA 法による前立腺性酸フォスファターゼの診断的価値.....藤井 光正・ほか...1263

病的腎に腎外傷を併した小児2症例.....前川 幹雄・ほか...1271

長期透析症例の腎性骨異栄養症: たびたび病的自然骨析をきたした2症例.....細川 進一・ほか...1275

女子傍尿道腫瘍の2例.....森山 正敏・ほか...1281

会陰部に開口する副尿道の1例—逆Y字型重複—.....荒川 創一・ほか...1291

Polymyxin B 局所投与による術後尿路感染予防および治療効果の検討 .....平賀 聖悟・ほか...1297

男子尿道部感染症に対する Cefoperazone の使用経験  
第1報: 1日1回 2g 投与時の臨床効果 .....榊 知果夫・中野 博...1305

男子尿道部感染症に対する Cefoperazone の使用経験  
第2報: 1日1回 1g 投与時の臨床効果 .....中野 博・榊 知果夫...1313

腎性高血圧に対する Alprenolol (Apollobal®) の使用経験.....安本 亮二・ほか...1319

前立腺癌に対する Estracyt® の臨床効果.....長船 匡男・ほか...1325

## Characterization of Epithelial Monolayer Cells Derived from Human

Normal Renal Cortex Tissue.....M. Matsuda et al....1201

Computed Tomographic Evaluation of the Renal Vein and  
Inferior Vena Cava in Renal Cell Carcinoma .....F. Masuda et al....1213

Diagnostic Validity of Renal Scintitography in Renal Space  
Occupying Lesion .....H. Ito et al....1221

A Study of Spinal Cord Injuries Complicated by  
Experimental Renal Artery Embolization in Dogs.....A. Sakai and T. Nakamura...1229

A Clinical Survey on 59 Cases of Testicular Tumor .....K. Yoshida et al....1237

Statistic Studies on Bacteria Isolated from Urinary Tract Infections  
and Its Disk Sensitivity in Recent 3 years (1976~1978) .....K. Okada et al....1245

The Evaluation of Radioimmunoassay for Prostatic Acid Phosphatase.....M. Fujii et al....1263

Two Cases of Renal Trauma on Affected Kidney in Children.....M. Maegawa et al....1271

Renal Osteodystrophy under the Long-Term Hemodialysis:  
Two Cases of Spontaneous Pathologic Fracture of Bone.....S. Hosokawa et al....1275

Paraurethral Tumor in Females: Report of Two Cases .....M. Moriyama et al....1281

A Case of Inverse Y Ureteral Duplication .....S. Arakawa et al....1291

Clinical Study on Effect of Local Administration of Polymyxin B  
Solution for Postoperative Urinary Tract Infection .....S. Hiraga et al....1297

Treatment by Cefoperazone for Infections of Male Urethral Region  
1. Clinical Efficacy of Daily Dose of Two Grams .....C. Masu and H. Nakano...1305

Treatment by Cefoperazone for Infections of Male Urethral Region  
2. Clinical Efficacy of Daily Dose of One Gram .....H. Nakano and C. Masu...1313

Effect of Alprenolol in Patients with Renal Hypertension.....R. Yasumoto et al....1319

The Clinical Effects of Estracyt® on Prostatic Cancer.....M. Osafune et al....1325

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,  
Kyoto University, Kyoto Japan 606  
京都大学医学部泌尿器科学教室

泌尿紀要  
Acta Urol. Jap.

禁帯出  
到着後1ヶ月間

## 編 集 後 記

## 医学教育について(3)

関連病院の院長と医学部教授とが話し合う会で、かつてはもっと医師を派遣してくれとの要望が多かったが、最近では派遣された若手医師の「質」がよく話される。卒直な意見が交換され、意義のある討論がなされることが多い。しかしなかには教育はすべて大学がやれ、そうして完成された医師を派遣せよといわんばかりのことを述べる人もいる。

筆者は過日、この会で次のような発言をした。「医学教育は大学だけでやるものではない。若い医師にこういう点が足りない、こうあるべきだというまに、自分の病院でしっかりした理念のもとに、合理的なカリキュラムを作成して教育を行っているか考えてもらいたい。もちろん立派な教育計画で、見事な卒後教育を行っている病院もあるが、まだまだ充分とはいえない。

ついでにいうならば、第一線の病院に若手医師が出ると、概して論文を書かなくなる。症例報告1つでも、若いうちに論文を書くことがいかに大切かは述べるまでもない。部長をはじめベテランの医師は、いくら忙しいとはいっても若手医師に論文を書くよう指導するぐらいの時間はあると思う。

いずれにしても病院あげて医学教育にとりくむという意欲をもってほしい……」 (O. Y.)

## 購 読 要 項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料と5,000円(送料とも)前納していただきます。  
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限ります。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

## 投 稿 内 規 (1969年1月改正)

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は400字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。  
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けません。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位はm, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ, %, PHなどを使用し、は不要です。またBUN IVP NPN PSP TURなども、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わずTable 1, Fig. 2等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。  
A 雑誌の場合 著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 西暦年次。(論文題名は自由です)  
文献名は正式略称を用いてください。  
例: 日泌尿会誌, 臨床皮泌, 皮と泌, 泌尿紀要, 臨泌; J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。  
B 単行本の場合 著者氏名: 書名, 版数, Vol. 数, p. 数, 発行所, 出版地, 年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受付はいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部, 書留便。

泌尿器科紀要 第26巻 第10号 1980年10月25日 印刷 1980年10月31日 発行  
創刊 稲田 務 顧問 加藤 篤 二 定価 500円(送料別)

発行 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要編集部

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)  
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入